

学校だより Vol.105

2018.11



Contents

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| 02 校長 入学式式辞 | 16 体験入学を終えて |
| 05 三主事・専攻科長あいさつ | 18 学生の活躍 |
| 06 各科・各コースの近況 | 22 クラブ活動紹介 |
| 10 インターンシップ報告 | 24 TOPICS |
| 15 学生の海外での活躍
廃止措置研究・人材育成推進室の取組 | 26 新任教職員紹介
27 秋季校内体育大会 |



第57回入学式 及び 平成三十年度編入学 並びに 第15回専攻科入学式 式辞

福島工業高等専門学校長 山下 治



新入学生206名、留学生2名を含む編入学生4名、専攻科生24名の皆様の福島高専への御入学をお慶び申し上げます。誠におめでとうございます。

また、御列席の保護者の皆様、お子様の御入学を心からお祝い申し上げます。

そして、本日、多数の新入学生諸君を福島高専にお迎えすることを、教職員、在校生一同、大変喜ばしく思っています。

皆さんのが入学した高専は、高校のような中等教育機関ではなく大学と同じく「高等教育機関」に位置付けられます。法律では、「高専は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」とされ、実践的・創造的技術者等の養成が重要なミッションとなります。教員は、教諭ではなく大学と同様に教授や准教授となり、入学生の諸君は本日から生徒

ではなく学生になります。

この福島高専は、昭和三十七年、国立工業高等専門学校の第一期校として、他の十一の高専と共に創立されました。本日、入学した皆さんは本校への第57回目の入学生となります。この間、本校から、およそ八千名を超える創造性と実践性を併せ持つ卒業生・修了生が巣立ち、様々な産業分野で活躍しています。

本日、入学した諸君も、地域の震災からの復興と新しい日本や福島の創生のために、先輩たちに負けずに活躍が出来るよう、本校でしっかりと勉学を積み重ねるとともに、人間力を育んで頂きたいと思います。

福島高専では、皆さんのが勉強するにあたり、三つの教育理念を定めています。

本校の教育理念の第一は、「広く豊かな教養と人間



力の育成」です。我が国や地域の発展にどのように役立つかを考えるためには、最初に、幅広い教養と倫理観を身につけることが大切です。さらに、人生における様々な困難に打ち勝つ人間力を育成することが重要です。

教育理念の第二は、「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」です。卒業後、幅広い分野で活躍できる創造的、実践的な人間となるためには、基礎知識に裏打ちされた柔軟な発想や企画力を保有する人材となる必要があります。皆さんには、創造性と実践性を兼ね備え、新たな産業を起こしうる「イノベーション人材」に育ってもらいたいと思っています。

教育理念の第三は、「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。グローバル化に伴う国際競争の激化に伴い、我が国を取り巻く状況は激変してきています。このような背景を踏まえ、皆さんには英語力を向上させることは言うまでもなく、英語で自分の意見を言い、異なった環境に住む相手の考え方を理解した上で、その相手とディベートも出来る能力を育成してもらいたいと思います。

さて、この三つ教育理念を達成するため、皆さんにはこれから五年間、次の四つの点を念頭において勉強してください。

まず、第一に、学校で定められた規則・規律を守り、皆が学校で快適に生活出来るように努力してください。

第二に、授業で教えてもらうのではなく、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを授業で質問して確認する姿勢を保ってください。皆さんには、目的を持って、この福島高専に入学してきたはずです。その目的に向かって、自ら学習する姿勢を保ってください。高専では、自宅に戻ってから予習や復習を行わない限り、勉強についていくことは困難です。勉学の動機を失わずに、常に目標をもって能動的に勉強してください。

第三に、課外活動を楽しんでください。文化部やスポーツ部に所属し、集団や組織での活動能力やコミュニケーション能力を身につけてください。

第四に、何でも語り合える友人を作ってください。



高専在学中の友人やクラスメート、クラブ活動の仲間は、一生の友人になりますし、これらの友人によって皆さんの人間力も育くされます。

以上に留意し、この福島高専で学ぶ5年間は必ずや皆さんのが実社会で生き抜く力を育んでくれます。日々、健康に気を付けて、夢と希望を持って勉学に励んでください。

次に、専攻科への入学生諸君。諸君は、本科五年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。専攻科二年の課程を終え、学位審査に合格すると、大学改革支援・学位授与機構から大学卒業と同じ学士の学位を得ることができます。また、グローバル化の時代にあって、自らの英語力を向上させ、是非とも海外インターンシップなどに挑戦してください。専攻科生として、広い視野を持ち十分な知識・技術と教養を身につけることができるよう、また、後輩の良き手本となるように日頃から勉学に励んでください。

さて、高専の置かれている状況は、時代の変化とともに刻々と変化しており、高専の教育・人材育成の在り方についても、様々な工夫や変化が必要となっています。現在、国は、福島・国際研究産業都市「イノベーション・コート」構想を策定し、復興のための整備を進めており、福島高専もこの流れに即応し地元の復興に貢献するための様々な事業に取り組んでおります。福島高専は、地域に根ざした高専としての地元の課題解決に貢献できる人材の育成にも力を入れており、「いわきから世界に活躍するイノベーション人材を育てる」をスローガンとしていることをご理解いただければ幸いです。

最後になりますが、新入学生諸君全員には、日々健康に気を付けながら、勉学や人間形成に励み、本校を卒立つまでに大きく成長して、将来、国内はもちろん国際的にも活躍できる実践的・創造的技術者に育つことを祈念して式辞といたします。



就任あいさつ

福島工業高等専門学校長 山下 治



この四月に校長に就任して以来、半年が過ぎました。前任の中村校長の方針を引き継ぎながら、福島高専が持つ強みを伸ばし、弱みを強化し、将来の躍進に向け努めてまいる所存です。

福島高専は、開校以来半世紀にわたり、五年一貫の専門教育を施すユニークな高等教育機関として、多くの実践的技術者を社会に輩出してきました。これまでも、常に地域の産業界や自治体の意見を反映させながら改革を進め、時代に即した有用な人材の育成・輩出に努めてきましたが、東日本大震災からの復興促進を図るため、現在政府が進めている「福島・国際研究産業都市（イノベーション・ココスト）」構想を推進する人材育成に向け、本科・専攻科の改組を行っています。

具体的には、平成28年4月に、ビジネスのグローバル化などに対応すべく、「ビジネスコミュニケーション学科」への改組、工学系の四学科についても、平成29年4月、「機械システム工学科」、「電気電子システム工学科」、「化学・バイオ工学科」、「都市システム工学科」へ改組しました。専攻科については、平成27年4月から、従来の機械・電気システム工学専攻と物質・環境システム工学専攻を一本化させ、産業技術システム工学専攻としています。

また、福島高専のスローガンである「いわきから世界に活躍するイノベーション人材を育てる」は、同じ第三期中期計画期間内であることから、これを前校長から引き継ぎ、三つの視点（「世界に活躍する」、「イノベーション」「いわきから」）を踏まえた様々な取組を、今年度も引き続き行っています。

具体的には、「世界に活躍する」という観点から、昨年度に続き、アメリカの公益団体「THE GREEN」が実施するグリーンプログラムにおける外国人学生の受け入れを5月と7月の2回にわたり実施するとともに、5月には、高専機構が主催する「持続可能な社会構築への貢献に向けた科学技術国際セミナー」の担

当校に新たに採択され、来年度から三年間、海外の担当校と共同で多国籍の学生によるワークショップを実施することとなりました。また、8月には、文部科学省の「トビタテ！留学JAPAN」の「地域人材コース」の決定を受け、引き続き学生を海外留学に派遣しました。

「イノベーション」という観点では、「福島イノベーション・ココスト構想」を支えるための「高専4.0イニシアティブ」の支援対象事業として、昨年度採択された「福島イノベーション・ココスト構想を支える人材育成プログラム」により、次世代エネルギー、農林水産業やインフラの再生に向けたイノベーション人材育成を引き続き実施するとともに、この5月に採択された「サステイナブルテクノロジー開発を誘引するグローバルリーダー育成事業」を新たに実施することとしています。

「いわきから」という観点では、再生可能エネルギー、原子力安全及び防災・減災の三分野で地域に活躍できる人材を育成する「復興人材育成特別プログラム」を専攻科において実施しているほか、福島第一原子力発電所の安全かつ着実な廃炉作業に貢献できる人材育成を目指す「廃炉に関する基盤研究を通じた創造的人材育成プログラム」を継続し、また、環境回復分野でも、原子力規制庁の「原子力規制人材育成事業」で、福島高専の「地域の環境回復と環境安全に貢献できる原子力規制人材の育成」事業など復興に向けた取組を引き続き実施しているところです。

福島高専は、常に教育の質の向上・充実に向けて、教育体制の改革を進め、特色ある教育や地域連携を開拓し、教育・研究の活性化に努めたいと考えています。今後も、地域に根付き、世界を視野に入れた福島高専であるために、教職員一同、日々努力を重ねてまいる所存ですので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

三主事・専攻科長あいさつ



学生のうちの 勉強の大切さ

教務主事

大槻 正伸

教務主事4年目になります、電気電子システム工学科の人槻です。よろしくお願ひ致します。福島高専は、平成27~29年度で、専攻科、本科の全体を改組しました。この3年間で全体の改新が完結した形となります。今年度は、改組後の各学科、専攻科のカリキュラム内容を学年進行にしたがって着実に実施しているところです。

さて現在は、「KOSEN」という言葉、そして高専教育システムが世界的に認知されつつあり、グローバル化もますます加速している状況です。社会の動き、学校の体制が大きく変化しつつあります。しかしそのような状況であっても、重要なことは「意志を強く持ちしっかり勉強すること」だと思います。人は生涯勉強が必要なことは当然ですが、年齢が上がってからの勉強と、学生のころ集中して行った勉強では密度が全然違います。若い学生のうちに勉強したことは一生の財産となります。学生諸君には今のうちに時間を無駄にせずに、たくさんのことを見つけてほしいと思います。

そのための支援をして、基礎学力の充実、実践力の向上にむけて少しでもお役に立てるよう努力していきますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

『チーム 福島高専』



学生主事

笠井 哲

学生主事2年目の笠井です。今年度から機構の支援を得て、教職員と保護者の皆様だけでなく、地域人材の力も借り市民有志の方や福祉の専門家も一体となり、「チーム福島高専」として諸問題の解決に当たることになりました。チームの一員として、6月から新たに「スクールソーシャルワーカー」も加わり、いじめや不登校といった問題の早期対応に助力を仰いでおります。

また私自身は、この夏休みに全国高専の「学生支援担当教職員研修」に参加し、いじめ問題や不登校問題に対する「未然防止」についても学んできました。いじめや不登校を防ぐためには、学校はどういう対策をしておくべきでしょうか。いじめや不登校が起こらないクラスに共通しているのは、「学校が楽しい」、「授業がよくわかる」という学生の割合が多いことだそうです。

そこでまず私たち教員には、よくわかる授業をすることが求められます。また後期には、学年・学科行事や磐陽祭などの楽しい行事もあります。学生にとって学校が楽しく授業がよくわかるようになれば、保護者の皆様にも喜んで頂けると思います。「福島高専で良かった」と言ってもらえるよう、一丸となって頑張ります。よろしくお願ひいたします。



元気に、大事に、 そして快適に

寮務主事

松江 俊一

磐陽寮では今年は45名の新入寮生を迎えて190名の寮生で新年度をスタートしました。寮生会役員を中心に先輩寮生が優しく指導してくれているおかげで、本年度も皆寮生活にいち早く馴染み、前期中一人の退寮者を出すことなく元気に寮生活を送っています。昨年度は学業不振や心身不調等による欠課者が散見できたのですが、今年はそれが殆ど見られないことも嬉しい限りです。

寮の運営面では寮監1名体制が軌道にのり、前期中には男子寮主要玄関のオートロック化が完成し防犯体制が整いました。それに伴いカードキーによる点呼や外泊許可願等の申請のデジタル化を図り試行的に実施したいと考えています。また寮内の管理機器をすべて寮事務室に集約しました。これにより女子寮内の旧寮監室を有効利用することが可能となりました。入寮者が増えている女子寮の定員増設に繋げたいと考えています。

施設面では女子寮の渡り廊下の屋根を改修しました。これにより雨に濡れることなく、食堂に移動することが可能となりました。年々施設の老朽化が進んでいますが、工夫を凝らしながらあるものを大事に使って少しでも快適に生活できるよう、これからも工夫を重ねていきたいと思います。



5年間プラス 2年間の学生生活

専攻科長

原田 正光

専攻科長4年目になる都市システム工学科の原田です。今年度の専攻科入学者数は定員25名のところ24名でした。優秀な人材が本校に残り一緒に研究をしたり、本科学生を指導したり、地域の復興にも悩んでもらったり、そのような人材を期待して、もっと多くの学生に残って欲しいと願っているところですが、少し残念な気持ちでおります。

本科5年間のうえに専攻科2年間ですから、トータル7年間同じ環境で学ぶことを考えると小学校6年間より長い。確かに生活環境を変えたいと思うのも当たり前かもしれません。しかし、環境を変えたくない、同じところでじっくり頑張りたいと思う学生がいることも事実で、専攻科ではそのような学生さんとお付き合いをさせていただいております。

専攻科修了後は、さらに地元に貢献する、首都圏の企業で活躍する、国立人の大学院でさらに専門性を身につける、など自分でしっかりと進路を切り拓いて立っていきます。もちろん、社会では活躍しており、頼もしい限りです。

どうか今後とも学生が思う存分勉学に励み学生生活を送ることができるよう、保護者の皆様、地域の皆様には引き続きご支援ご協力ををお願いいたします。



インターンシップを通じて感じたこと

建設環境工学科4年 大和田桃華

私は、東京ガス株式会社で5日間、東日本旅客鉄道株式会社（以下JR東日本）で10日間お世話になりました。ガスや鉄道といったインフラは日常生活において必要不可欠なものであり、将来私も人々の生活を支えていきたいと考えインターンシップに参加させていただきました。今回は特に、JR東日本でのインターンを通じて感じたことをまとめます。

JR東日本では、高架橋や災害現場の視察、安全パトロール、パワー・ポイントを用いた成果報告を体験しました。研修を通して、私たちが日々当たり前のように利用している鉄道も、多くの人の力によって支えられていることを感じました。実習期間中に台風が接近し、倒木の影響で電車が止まるトラブルが発生したのですが、緊急時に社員全体が一致団結している姿がとても印象に残りました。列車早期運転のために協力し合い、助け合うことはとても大切だと感じ、無事目的を達成した際に大きなやりがいを得られると感じました。

会社の雰囲気は、最初は少しお堅いイメージがあったのですが、実際は全くそんなことはなく、皆さんとても温かい雰囲気で、優しく丁寧に様々なことを教えてくださいました。また、インターン生歓迎会や高専卒の社員との懇親会なども開いていただき、今まで知らなかったJR東日本の良さや就職に向けてのアドバイスなどを伺うことができました。さらに、女性が働きやすい環境も整っており、一生働き続けることができるとしても魅力的な会社であると感じました。

今回のインターンシップを通して、自分に足りない課題や自身の将来像がインターン前に比べ明確になったと感じています。これらのことと今後の就職活動の糧にして頑張りたいと思います。



ハニーズのインターンを経験して

コミュニケーション情報学科4年 花塚彩乃

私は、株式会社ハニーズホールディングスで9月10日から9月14日までの計5日間のインターンシップを行いました。私がお世話になったのは人事部で、そこでは高校生新卒採用業務の補助や書類作成の補助、書類整理などの業務を体験させていただきました。ファッション業界には華やかなイメージがあると思いますが、本社でのお仕事は地道な作業が多く、ハニーズの華やかさを陰で支える縁の下の力持ちのような役割だと実感し、表側からは見えない本社の方々の努力を知ることができました。

私がハニーズのインターンで学んだことは、コミュニケーションの大切さです。事務の仕事は一人で黙々と行うというイメージがあったのですが、実際に業務に携わらせてもらうと、部署の方々で協力をして行う仕事なども多く、業務をこなすうえで周りとのコミュニケーションはとても重要なだと感じました。また、私はインターンの間、普段の学校生活では体験できない慣れない作業を行う中で、自分の技量や知識不足でうまくいかず大変だと感じることも多々あり、この5日間で自分の足りていないところや努力が必要なところなどが浮き彫りになりました。私は将来社会に出る際に、縁の下の力持ちのような存在になれる仕事に就きたいと思っています。そのため、今回のインターンで学んだことや感じたことを忘れずに残り少ない学生生活、勉強などの努力を重ね有意義なものにしたいと思います。

5日間という短い間ではありましたがハニーズ本社で実際の業務に携わらせていただけたことは、これから就職活動をするうえで大変貴重な経験になりました。インターンシップを受け入れてくださったハニーズの皆様、本当にありがとうございました。



インターンシップを終えて

産業技術システム工学専攻
生産・情報システム工学コース1年 雲 藤 篤 道

私は会津若松市にある会津大学で行われたenPiTにて2週間のインターンシップに参加しました。enPiTとは、情報技術を高度に活用して社会の具体的な課題を解決できる人材の育成機能を強化するため、産学協働の実践教育ネットワークを形成し、課題解決型学習等の実践的な教育を推進し広く全国に普及させることを目的としたプログラムの名称です。

今回のインターンシップでは、「ITを用いた柳津町における滞在人口の増加」をテーマとして、会津大学、日本大学工学部、福島高専専攻科、タイの大学の学生でチームを組み、解決に取り組みました。1週目は、新しいアイデアを生み出す方法についての授業や実際に柳津町を歩き調査や現地の方に説明やインタビューを行い、チームごとにアイデアを出し、実際に出したアイデアをシミュレーションするためのモデルを作成し、アイデアの発表を行いました。2週目は、アイデアを具体的に形にするためにWebアプリの開発環境の製作や開発するために必要な工程などの説明を受け、実際にテーマに沿ったWebアプリの開発を行いました。このインターンシップを通して、私はアイデアの発想するための手法やそのアイデアの実装する方法、ほぼ毎日発表を英語で行つたため英語を用いた発表の仕方を学ぶことができました。また、海外の大学の学生とチームを組めたことで正しいコミュニケーションをとる難しさや重要性などを感じました。これまで、他の大学の学生とチームを組む経験がなかったので新鮮でいい経験をすることができました。Webアプリを開発する手法が身につきました。今回のインターンシップの経験を今後の学生生活や就職後に生かしていきたいと思います。



インターンシップを終えて

産業技術システム工学専攻
エネルギーシステム工学コース1年 石 黒 雄 貴

私は東北大学大学院にて2週間のインターンシップに参加しました。

今回のインターンシップでは、「磁気浮上型超電導免震・免振システムに関する研究」をテーマとして、研究に取組みました。私が本研究テーマを選択した理由は、この免震システムが地震大国であり、東日本大震災以来活発な地震活動が続いている我が国にとって必要なものであると強く感じたことと、私がこれまで行ってきた永久磁石を用いた非接触搬送システムの研究とも関連する部分が多いため、より実践的な内容を学習することができると考えられたからです。

今回のインターンシップでは主に、プログラミングによる磁場解析を行いました。コンピュータを用いた磁場解析では、一般的に（直交あるいは非直交）グリッドと呼ばれる空間の離散化（分割）し、媒体をモデル化した後、各グリッドごとに計算を行います。専攻科の研究ではこれらの計算を専用のソフトウェアを用いて行っていましたが、今回のインターンシップでは、これらの作業を行うためのプログラムをC++で作成しました。実際に磁場解析を行うためのプログラミングを行ったことにより、磁場解析ソフトの中でどのような作業が行われているのか、さらに理解を深めることができたと思います。

また、最終日に2週間にわたるインターンシップの総まとめとして発表を行いました。インターンシップ先の先生や私を担当してくださった方のご指導により、無事発表を終えることができましたが、その過程において、実験装置等の立体的な概略図の作成方法や、その概略図を任意の振動数で上下させるプログラミングなど、効果的に分かりやすい発表資料を作成するのに役立つ様々な技術を習得することができました。

今回のインターンシップによって、自分自身の研究に役立つ知識や技術の習得はもちろん、大学院がどのような場所なのか、大学院における研究とはどういったものなのかといった自分自身の進路選択においても大変重要な情報や体験を得ることができました。今回のインターンシップで得たものを、今後の生活、ひいては人生において、最大限活かしていきたいと思います。



インターンシップ協力企業等一覧

ご協力に感謝申し上げます

(種類別にアイウエオ順)

● 企業等

株式会社Aiming、e.TEAM ANA、IPM国際発展貿易株式会社、株式会社JALエンジニアリング、JR東日本コンサルタンツ株式会社、JXエンジニアリング株式会社、JX金属株式会社、株式会社KSF、株式会社NOVA、株式会社NTT東日本—東北福島支店、株式会社アオバサイエンス、暁経営会計、あさひ綜合会計事務所、あすか製薬株式会社、株式会社アズテックス、アステラスファーマテック株式会社高萩技術センター、株式会社東コンサルタント、株式会社アセンド、アルパイン株式会社、アルパインマニュファクチャリング株式会社、株式会社アルビオン、アルプラス電気株式会社、株式会社エーピー・アイコーポレーション、エイチ・アイ・エス株式会社、株式会社エイティック東日本支社、株式会社エイブル、株式会社栄楽館ホテル華の湯、エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社、株式会社荏原製作所、エムシー・ファーティコム株式会社、応用地質株式会社、株式会社大和田測量設計、奥地建産株式会社、株式会社小野工業所、オムロンフィールドエンジニアリング株式会社、オリエンタル白石株式会社、花王株式会社、カゴメ株式会社、株式会社加地和組、河井税理士事務所、キヤノン株式会社、キヤノンシステムアンドサポート株式会社九品寺こども園、クリナップ株式会社、株式会社クレハ、株式会社クレハ環境、ケンコーマヨネーズ株式会社、株式会社江東微生物研究所、株式会社鴻池組、五洋建設株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社サンフレックス永谷園、株式会社シグマ、株式会社資生堂、常磐開発株式会社、常磐共同火力株式会社、新日鐵住金株式会社、水King株式会社、株式会社スパイスアップ・アカデミア、株式会社総合環境分析、曾田香料株式会社、ソニーストレージメディアマニュファクチャリング株式会社、第一三共ケミカルファーマ株式会社、高砂熱学工業株式会社、田中貴金属グループTANAKAホールディングス、田中建設株式会社、株式会社タンガロイ、テコム株式会社、株式会社テムロ、電源開発株式会社、ドーピー建設工業株式会社、東京ガス株式会社、東京急行電鉄株式会社、東京水道サービス株式会社、東京電力ホールディングス株式会社福島第一廃炉推進カンパニー、東京都下水道サービス株式会社、東部ガス株式会社、株式会社東邦システムサイエンス、東北電力株式会社、株式会社東北村田製作所、東洋建設株式会社、西松建設株式会社、日鉄住金環境株式会社、日東紡績株式会社、日本空港テクノ株式会社、日本ケミコン株式会社、日本たばこ産業株式会社、日本ファブテック株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社、長谷川体育施設株式会社、パナソニック株式会社才

ートモーティブ & インダストリアルシステムズ社、株式会社ハニーズ、株式会社東日本計算センター、東日本高速道路株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、ひまわり信用金庫、フードテクノエンジニアリング株式会社、株式会社福島インフォメーションリサーチ & マネジメント、福島県商工信用組合、福浜大一建設株式会社、株式会社富士通エフサス、株式会社ふたば、古河電池株式会社、株式会社牧野フライス製作所、丸磯建設株式会社、三井金属鉱業株式会社機能材料事業本部機能材料研究所、三井住友建設株式会社、三菱ガス化学株式会社、三菱地所コミュニケーション株式会社、三菱重工業株式会社、三菱電機システムサービス株式会社、三菱電機ビルテクノサービス株式会社、三菱マテリアルテクノ株式会社、村田機械株式会社、株式会社モディー、八幡印刷株式会社、山平会計事務所、ユカイ工学株式会社、ユニオン建設株式会社、若築建設株式会社

● 官公序・公益法人等

いわき芸術文化交流館アリオス、いわき市役所、大熊町役場、公益財団法人東京都都市づくり公社、公益財団法人ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま、郡山市役所、国土交通省東北地方整備局、国立研究開発法人海上・港湾・空港技術研究所港湾空港技術研究所、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、西郷村役場、福島県庁、古殿町役場

● 大学等

岐阜大学、筑波大学、東京工業大学、東京農工大学、東北大学、豊橋技術科学大学、長岡技术科学大学、山形大学、山梨大学、横浜国立大学、舞鶴工業高等専門学校社会基盤メンテナンス教育センター、ジェームズクラック大学(オーストラリア)、リールA技術短期大学(フランス)、ルアーブル技術短期大学(フランス)

学生の海外での活躍

IT留学が変えた将来の考え方

電気工学科3年 三浦 伊織

今年度からトビタテ留学JAPAN！高校生コースに新設された、「未来テクノロジーハウス」に参加し、フィリピンのセブ島に約4週間滞在しました。「Kredo」というIT留学の学校に入学し、英語を使ってITを学ぶという挑戦をしました。

学校では大きく分けて英語クラスとITクラスの2種類がありました。英語クラスはマンツーマンレッスンとグループレッスンに分けられ、さらにマンツーマンレッスンは自分の習得したい分野を選択することができました。例えば私は、英語で自分自身のことをもっと表現できるようになりたかったので、自己表現スキルのレッスンを受けました。ITレッスンではWebデザインを行う上での基本的なツールの使い方や、Webサイトを作成するためのプログラミング言語などを学びました。最初は難しいと思いましたが、英語で書かれたプログラミング言語を英語で行う授業で学ぶことで、とても理解しやすかったです。

私はこの留学を通して、自分自身の将来の考え方本当に変わったと思います。IT留学ということもあり、学校には将来起業を目指す大学生や、仕事を辞めて留学しに来た人など、この留学で将来の夢を叶えようとしている人がたくさんいました。現地のIT企業の人とお話をすることもできました。そして私は、フィリピンという日本と全く違う環境でそのような人たちと生活をし、大きなインスピレーションを受けました。私は将来、今回の貴重な経験をもとに、プログラマーになりたいと思っています。海外で働くことも視野に入れています。そのためには、自主的に様々なプログラミング言語の習得をしていこうと思います。

今、少しでも留学に興味を持っている人はチャレンジしてみてはどうでしょうか？自分の知らない世界に飛び込むことは、考え方や感じ方を変えるとても良い機会だと思います。



廃止措置研究・人材育成推進室の取組

廃止措置研究・人材育成事業の実施状況

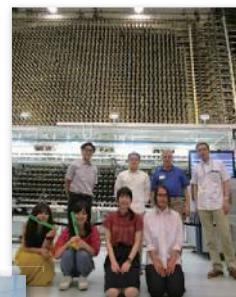
廃止措置研究・人材育成推進室長

青柳 克弘

本校では、平成27年度より東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に向けた廃止措置研究・人材育成事業に取り組んでいます。

初めに教育ですが、今年度も昨年度同様、原子力発電基礎(1年生)、放射線基礎(2年生)、廃炉と社会(3年生)、廃炉ロボット概論(3年生)、廃炉工学(4年生)、原子力事故総論(5年生)の6科目を開講します。これらの内、原子力事故総論はすでに実施済みで、東日本国際大学・福島復興創世研究所所長の大西康夫先生に授業をしていただきました。これらの授業は、本校だけでなく、全国の高専にテレビ会議システム等により配信を予定しています。また、夏季休業中には「海外サマースクール」が開催され、福島高専2名、茨城高専1名、富山高専1名、香川高専2名の合わせて6名の高専生が参加しました。今年度は、アメリカ合衆国ローレンス・バーカー国立研究所、ヴェオリア、ハンフォードB原子炉等を訪問しました。それから、12月14日(金)、15日(土)には日本原子力研究開発機構楢葉遠隔技術開発センターにおいて、第3回廃炉創造ロボコンを開催します。すでに、高専14校、15チームおよびマレーシア工科大学1チームの合わせて16チームの参加が決定しております。8月21日(火)～24日(金)にはロボコン参加者を対象に楢葉サマースクールが開催され、本番前の予備教育として東京電力福島第一・第二原子力発電所の視察や会場における廃炉技術研修を行いました。

次に研究ですが、全国高専のネットワークを利用して廃炉に関する基盤研究を進めています。年に2回、成果報告会を行っており、8月27日(月)には本校大会議室において、テレビ会議システムを利用した研究報告会を開催しました。



平成30年度 体験入学を終えて

入学者対策専門部会長

根本 昌樹

平成30年度の体験入学は、8月4日(土)、5日(日)で行われました。両日とも猛暑の中で実施されました。トラブルも無く無事に終了しました。今年度の参加者は総勢688名で、中学生の大変満足した表情が印象的でした。今年の各学科のデモ実験のテーマと内容等を紹介します。

機械システム工学科

「機械工学の魅力を知ろう」というテーマで、
①機械工作実習紹介 ②身の回りにあるもので、簡単に作れるおもちゃの製作を行いました。



電気電子システム工学科

「電気・電子・情報の世界へようこそ 見る・触る・感じる」というテーマで、①カンタン操作でロボットを動かす
②電気の力の体験を通じ未来を感じる体験を行いました。



交流コーナー

休憩時間を利用して、①学校紹介 ②入試相談
③ミニ研究紹介 ④各種ロボコン出場実演を行いました。
更に課外活動の紹介も行いました。



化学・バイオ工学科

「化学への招待ー楽しい化学の実験室ー」というテーマで、「化学・バイオ工学科」を具体的に楽しくイメージ出来るよう、すぐにできる化学実験の体験を行いました。



都市システム工学科

「災害に強いまちを造る」をテーマに、
①体験しよう! 液状化マジック ②打音検査に挑戦!!
の体験を行いました。



ビジネスコミュニケーション学科

「Be ambitious! ビジコミの世界を体験してみよう」というテーマで、①学科紹介 ②ビジコミで学ぶ「経済」の世界を体験して貰いました。



地域貢献事業

「平成30年度第9回中学生英語スピーチコンテスト」開催される

去る7月28日(土)に本校開放事業「第9回中学生英語スピーチコンテスト」が本校の会議室を会場に開催されました。今年は県内の9中学校から17名が参加して実施されました。過去最多の参加者数でした。題は自由で、5分以内のスピーチで競い合いました。スピーチの内容がかなりレベルが高く、原稿作成の段階で相当の努力がなされたものと推測されました。またそれを多くの人の前で説得力を持って発表できるようにするために、かなり練習を積んできているようでした。発音、パフォーマンスなど出来栄えは、個人的に多少差はありましたがあ、どの参加者も一つの事をやり遂げたという達成感を強く感じているようでした。閉会式の後、一緒に写真を撮ったりして、交流を深めました。



出前授業

本校では、地域貢献事業の一環として、各学科それぞれが特徴ある出前授業を行っています。今回、電気電子システム工学科の教員と学生が担当したものを紹介します。本年度は、小名浜公民館、いわき市立中央台東小学校、いわき市立江名小学校学童クラブ、小名浜第三小学校学童クラブからの依頼で出前授業を実施しました。テーマは、「再生可能エネルギーについて考えよう」と設定しました。馴染みのあるブロックを用いたソーラー カー作りや再生可能エネルギー発電装置の実演・体験などに加えて、小学校低学年生に対しては本校の学生がオリジナルで製作した「かるた」や「すごろく」といった遊びの中で理解を深めてもらいました。体験型の授業の中で子供たちがとても楽しいそうに取り組んでいた姿が印象的でした。また、第11回北茨城市民夏まつりにもブース出展という形で参加させていただき、子供たちとソーラーカー作りを行いました。参加した教員および本校学生にとっても、エネルギー教育の重要性について改めて気付くことができた大変貴重な体験だったと思います。今後も地域の子供たちのために出前授業活動を積極的に行っていきたいと思っております。



茶道の魅力

茶華道部指導教員 高橋 章

茶華道部の活動内容は、茶道と華道になります。華道については、熱心に指導してくださる講師の先生に来ていただけますが、現在は茶道のみ行っております。流派は裏千家で、お二人の熱意をもってきめ細やかに指導してくださる講師の先生方に来ていただいております。お稽古は基本的に水曜日の放課後に行っており、夏休みや春休みには、いわき生涯学習プラザで行うこともあります。そのお稽古の成果発表の場は、7月と12月に市内高等学校茶道部と一緒に行ういわき市学校茶道連盟合同発表会と11月の本校磐陽祭霜月茶会です。

華道もですが、茶道は日本文化の象徴的なものです。茶道は招待客に抹茶を差し上げて、おもてなしをしますが、お菓子や茶碗などの道具で季節を楽しむことができます。

お茶を点(た)てる人を亭主(ていしゅ)と言い、飲む人を客と言います。亭主をはじめとするお茶を出すスタッフは、客のために心を込めてさまざまなものを用意します。客は、客だからと大威張りするのではなく、亭主側が心を込めたことに感謝する心を持ちます。このように互いに相手のことを思いやる心を持つことがとても美しいものです。

通常の部活でのお稽古は薄茶(うすちゃ)を点てたり飲んだりします。多くの人が集まる大寄せの茶会では薄茶をいただきます。5人ほどしか入れない茶室で行う本格的なものを茶事(ちゃじ)と言います。本来、茶事で客を招待して御馳走するのは濃茶(こいちゃ)です。濃茶のために懐石料理を出したりもします。濃茶がメインディッシュであるとすれば、薄茶はデザート的なものです。部活では、薄茶点前を通して立ち居・振舞いの基礎を学びます。これは濃茶点前にも応用できます。

茶道は総合芸術であると言われていますが、最も大事な掛軸をはじめとして、いろいろな工芸品、美術品があります。また、お湯を沸かすためには炭を用いる場合がありますが、燃える炭も美しいもので、客もこれらを拝見します。その他にも、おもてなしをする工夫がたくさんあります。そのように茶道は奥深いものです。

おいしくて美しいお茶やお菓子をいただくことができますので、学生の皆さんには、4、5年生から始めて結構ですので、茶華道部入部を検討してみてください。



磐陽祭霜月茶会にて



いわき学校茶道連盟合同発表会にて



いわき学校茶道連盟合同発表会にて

顧問の立場として

バドミントン部指導教員 小田 洋平

バドミントン部は現在部員40人、顧問4人（小田、松江先生、梅澤先生、鈴木（三）先生）の体制で、第一体育館を主な練習場所として活動しています。今年度はこれまでなんと高体連地区大会女子3冠、高体連県大会男子団体ベスト8、東北地区高専大会男女全種目制覇、全国高専大会男子シングルス2位・女子ダブルス3位と幸いにも日々の練習が実を結んでいます。はたまた日本のバドミントンに目を向ければ、2年前のタカマツペアのリオ五輪金メダル、最近では桃田選手の世界選手権優勝と大活躍中で2020年の東京五輪への期待も膨らむ一方です。世界の壁は高く国内でもバドミントンは典型的なマイナースポーツの地位にあった私が学生の頃（ほんの十数年前…）と思うと一瞬にして半端ない時代になったと改めて感じます。

ここで少し自身の話をさせていただくと、中学校のときに何となくバドミントン部に入ったのがきっかけとなり、そのままの流れで高校・大学と部活を続けました。大学院の頃や卒業後も社会人のサークルに入る機会があり、そして気がつけば4年前に福島高専の教員となった際にはバドミントン部の顧問となっていました。とは言ってもただキャリアが長いだけで、実力的には大したレベルではありません（このことは部員達が一番よく分かっているはずです）。しかしながら特に高校・大学の部活での経験や友人は自分の中では大きな財産となり、今は顧問の立場であっても学生から学ばされることは色々あるような気がして、振り返ればバドミントンを続けてきたお陰で得られたものが沢山あったように思います。

福島高専バドミントン部の顧問になったのも何かの縁と考え当初は意気込んでいたものの、練習に関しては多用という言い訳で時々体育館へ見に行く程度というのが現状です。それでも学生は自分達で練習メニューを組んで実行し、それを毎年引き継いでいる訳ですからよくやっています。確かに専門の指導者がいればバドミントンの実力はもっと伸びると思いますが、自分の弱点は何か考察し、それを克服するために何をすればよいのかを学生が自分の中で試行錯誤することは経験として大変重要ではないかと考えています。なぜならこれが将来的には課題設定能力や課題解決能力といった研究者や技術者にとって不可欠な力に繋がってくるからです。

結局は学生の自主性に任せざるを得ない状況にしてしまい申し訳なく思う一方で、当の学生達はそんなことは全く意に介さず楽しくやっているようです。東北地区高専大会のとき私は学校で留守番をしていましたが、引率の松江先生より経過報告の電話を逐一いただきました。選手のパフォーマンスも応援も最高潮に達したとお聞きし、今までバドミントンをやってきた中で、極端に言えばこれまでの人生で一番熱い気持ちになったという学生も多かったのではないかと想像します。このような経験ができるのも学生時代の部活動の醍醐味であり、彼ら彼女らが今後生きしていく上での自信や励みになれば冥利に尽きるといったところでしょうか。あとは共に過ごした仲間同士が一生付き合える友人となってくれることを願うところです。顧問としてやれることはごく僅かですが、クラブ活動を通して学生達が様々なものを得て卒業していってくれたらと思います。



研究推進理解増進セミナーを開催

高専の教員はそれぞれ研究テーマを持ち、研究の中で得られた成果を学生に還元することで質の高い教育につながるよう、日頃から研究に励んでいます。福島高専では、教員の研究活動の活発化、研究能力の向上を目指し、教員を対象とした「研究推進理解増進セミナー」を6月13日に開催しました。

講師には国立高等専門学校機構理事の安藤真氏、富山高専校長補佐(研究高度化推進担当)の高田英治氏の2名を招き、科学技術を取り巻く世界の動向や、他高専での取組事例、研究推進の具体的な数値目標等について講演していただきました。講演後の質疑応答においても意見交換がなされ、教員個人のみならず、学校としても有意義なものとなりました。

教員の研究能力向上のための取組は今後も継続し、学生教育の充実につながるよう努めます。



The GREEN Program Japanを開催しました

福島高専は、連携協定を締結している米国の公益団体The GREENの研修生を科目等履修生として受け入れ、第4回目のThe GREEN Program Japanを7月31日から8月9日の10日間、福島県内で実施しました。

今回のプログラムには、アメリカなどから大学生8名が参加し、いわき市をはじめ裏磐梯等において福島の文化に触れ、書道体験等をとおして日本についての理解を深めました。

更に福島高専を拠点として、原子力発電や廃炉に関する基礎知識、再生可能エネルギー等の講義を受講しました。また、福島第一原子力発電所、JAEA、FREA等の視察を行うことにより、福島の復興状況を見ながら、最新の再生可能エネルギー技術等について学びました。

特に今回のプログラムでは、同じいわき市にあり、連携協定を締結している東日本国際大学が開催した「【福島復興創世研】第3回福島・ Chernobyl・ Sri Lanka International Conference」に参加する機会を得ました。参加者は、環境除染の権威による講義をはじめ、国内外の研究者や専門家ら世界の英知に耳を傾けていました。



さくらサイエンスプラン採択プログラムを実施しました

本校では、さくらサイエンスプラン採択プログラム「実践的ものづくり交流と先端技術視察」の一環として、平成29年度から学術交流協定を締結している中国の陝西工業職業技術学院の学生10名と引率教員1名を、6月10日から6月16日まで受け入れました。

さくらサイエンスプランとは、日本・アジア青少年サイエンス交流事業として、国立研究開発法人科学技術振興機構が行っている事業です。

本校では、このさくらサイエンスプランへ初めて応募し、採択されました。様々な工学系分野に所属する学生らは、本プログラムをとおして、福島高専の工学系4学科の代表的なモノづくり体験に参加するとともに、いわき市を代表する製造企業の見学、JAEA楢葉遠隔技術開発センター、産総研福島再生可能エネルギー研究所等の視察を行い、更に日本文化体験、環境水族館見学を行いました。参加学生は、自分の専攻と違う実験にも興味深く取組、異文化体験や学生交流も積極的に行っていました。



福島高専でのモノづくり体験授業の様子



茶道体験の様子



さくらサイエンスプラン修了証書授与式の様子

Japan-IAEA 原子力エネルギー・マネジメントスクールを開催

昨年に引き続き、7月17日から8月2日にかけて2018年度のJapan-IAEA 原子力エネルギー・マネジメントスクールを開催しました。3週間の研修期間中、1週目と3週目は東京大学で、2週目は福島高専で開催しました。研修生はトルコ、中国、ベトナム、マレーシア、サウジアラビアやポーランドなど12カ国から18名と日本人が8名参加しました。いわき市内農作物の全品種検査

・安全確認モニタリング検査を行っているJA、ワンダーファームを見学し、風評払拭に向けた取り組みを理解してもらいました。さらに今回は、福島県水産試験場を訪れ、水産物の環境放射線モニタリング検査を見学しました。風評被害の大きさや、その克服に向けた事業者のひたむきな努力を研修生は目の当たりにし、感銘を受けていました。福島高専でのセッションでは、学生と英語での交流会を企画し、研修生が本校学生と直接触れる機会を設けました。学生にとっても海外の方と交わる良い機会となりました。



平成30年度 行事予定(後期)

2018年

11月

- 2日 (金) 磐陽祭準備 前夜祭
- 3日 (土) 磐陽祭
- 10日 (土) ~11日 (日)
 - 第15回 全国高専デザインコンペティション2018 (釧路)
- 20日 (火) ~28日 (水)
 - 後期中間試験期間
- 25日 (日) 全国高専ロボットコンテスト2018 (両国国技館)

2019年

12月

- 1日 (土) 専攻科社会人入試
- 12日 (水) 学生会役員選挙
- 22日 (土) 閉寮
- 冬季休業開始 (1月6日(日)まで)
- 28日 (金) 学校閉鎖期間 (1月3日(木)まで)

2019年

1月

- 12日 (土) 推薦入試・寮スポーツ大会
- 18日 (金) 専攻科特別研究Ⅰ発表会 (1年)
- 23日 (水) 専攻科特別研究Ⅱ発表会 (2年)
- 26日 (土) 卒業研究発表会 (電気)
- 26日 (土) ~27日 (日)
 - 第12回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト
 - (西区民センター大ホール (なでしこホール) 兵庫県神戸市西区糀谷5丁目6-1)

2月

- 6日 (水) ~13日 (水)
 - 後期期末試験
- 17日 (日) 学力入試
- 20日 (水) 後期授業最終日
- 21日 (木) ~25日 (月)
 - 補講期間
- 22日 (金) 卒業研究発表会 (建設)
- 26日 (火) 卒業研究発表会 (機械) (コミ・学外)
- 27日 (水) 卒業研究発表会 (物質) (コミ・学外)
- 28日 (木) 卒業研究発表会 (物質)

3月

- 4日 (月) 終業式、寮送別会
- 5日 (火) 閉寮
- 22日 (金) 卒業証書・修了証書授与式
- (いわき芸術文化交流館アリオス)
- ※20日(水) 開寮 ~ 23日(土) 閉寮
- 28日 (木) 開寮

入学試験の日程

本科

●一般推薦ならびに課題達成型推薦による選抜

- ・出願期間 平成30年12月25日(火)
～平成31年1月4日(金)
- ・面接日 平成31年1月12日(土)
- ・内定通知日 平成31年1月17日(木)
- ・入学確認書提出期限 平成31年1月24日(木)

【注】12月28日(金)～1月3日(木)までは学校閉鎖期間につき願書受付できません。

●学力による選抜

- ・出願期間 平成31年1月28日(月)
～2月1日(金)
- ・検査日 平成31年2月17日(日)
- ・合格発表日 平成31年2月22日(金)
- ・入学確認書提出期限 平成31年3月1日(金)

●帰国子女特別選抜

- ・出願期間 平成30年12月25日(火)
～平成31年2月1日(金)
- ・検査日 平成31年2月17日(日)
- ・合格発表日 平成31年2月22日(金)
- ・入学確認書提出期限 平成31年3月1日(金)

【注】12月28日(金)～1月3日(木)までは学校閉鎖期間につき願書受付できません。

専攻科

●社会人特別選抜

- ・出願期間 平成30年11月19日(月)
～22日(木)
- ・試験実施日 平成30年12月1日(土)
- ・合格発表日 平成30年12月6日(木)
- ・入学確認書提出期限：平成31年1月11日(金)

編集後記

お忙しい中、原稿を寄せていただいた皆様、ありがとうございました。学内の教育活動や学生の皆さんのが関わった学内外での活動など、多方面における活躍の記事が掲載されています。これらの活動ではとくに学外の多くの皆様にたいへんお世話になりましたこと、紙面を借りて御礼申し上げます。私たち教職員もこれからの時代に活躍できる人材の育成に一層貢献できるよう頑張っていく所存です。本報をぜひ多くの人に読んでいただき、励ましのエールなどをいただけすると幸いです。